

特定非営利活動法人

ほっとハウスやすらぎ



所長：西川 しのぶ

放課後等デイサービス
ほっとハウスばうむ



就労継続支援B型事業所
ほっとハウスやすらぎ



就労継続支援B型事業所
ほっとハウスれーべん



●設立のきっかけ

- ・平成9年1月、当時精神障がい者の日中活動の居場所がなく、「ほっとハウスやすらぎ」が家族や当事者の希望の場所として、また会津地域精神保健福祉の担い手として開所した。
- ・平成29年に開所から20周年を迎えた。



●団体の目的

・～創る～

障がいのある方も、職員も、家族も、それぞれが新しい自分を創ることを目指す。

・～繋ぐ～

これまでと今、これからを繋ぐことを目指す。

・～紡ぐ～

心と心を紡ぐことを目指す。



私たちの思い、考え

▶地域の課題

1. 障がい者も健常者も、大人も子どもも、心に抱えている悩みや不安を、**安心して相談できる場所**が不足している。
2. **一人暮らしの方や、一人親家庭の子ども**が増えている。
3. **市町村の垣根を越えて**、様々な人が集まれるカフェが必要とされている。
4. カフェで食事作りや話し相手になってくれる等、カフェの手伝いをしてくれるボランティアの確保が難しい。



●目指す地域の姿

- ・障がい者、健常者、子どもからお年寄りまで、お互いを必要として集まれる場所「**ごちゃまぜカフェ**」があり、安心してなんでも相談できる居場所になること。
- ・障がい者も高齢者も、地域の力になって、活力を作り出すことができる場所となり、地域の方々と繋がっていくこと。
- ・一人ひとりが、お互いの気持ちの優しさをくみ取り、太い絆に変えていくことができる地域を目指す。

活動紹介

就労継続支援B型事業所「ほっとハウスやすらぎ」

- ・平成9年 小規模作業所として開所
- ・平成20年 障がい者自立支援法施行により、就労継続支援B型事業所へ移行
- ・職員数 10名 ・定員40名
- ・地域の小学校との交流事業を、20年間に亘り行っております。
- ・作業種目
売店運営、カフェ運営、仕出し弁当作り、施設外就労



放課後等デイサービス「ほっとハウスばうむ」

- ・平成25年開所
- ・職員数 5名 ・定員10名
- ・開所時間: 月～金 13:00～19:00
学校休業日 9:30～18:30



就労継続支援B型事業所「ほっとハウスれーべん」

- ・平成25年開所
- ・職員数 4名 ・定員26名
- ・作業種目: 企業からの下請け作業、農業、オリジナル製品の製作



地域、住民、ボランティア、参加者の反応や変化 「地域の方の声にも成果が現れる」

- ・障がい者との交流を通して、「会津若松市立川南小学校」が障がい者の自立と回復に寄与している事を評価され、全国の教育機関で初めて、「精神障がい者自立支援活動賞」を受賞した。
- ・実際に障がい者と接してみて、自分と変わらない事に気付いた。
- ・見た目にはわからないが、心の葛藤を抱えていることが分かった。
- ・障がい者への偏見をなくしていく事が大切だと気付いた。
- ・心の健康には、笑顔が一番大切である。



協働に向けて

活動・組織での悩み 困っていること

1. 「**ごちゃまぜカフェ**」をやるにあたり、子どもから大人まで、障がいがあっても無くても、楽しめるような居場所づくりのアイデア、周知を図って行くのが困難。
2. 一緒に「**ごちゃまぜカフェ**」を手伝ってくれる人材が不足している。



企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

1. 私達は、31年度に「**ごちゃまぜカフェ**」を蔵造りの建物でオープンしたいと思っております。建物の片づけやアイデアのご提供、チラシや告知の協力。
又、ボランティアで話し相手や一緒に食事を作ってくれる方を必要としております。
2. 家庭の事情で、一人で夕食を食べなければならない子どものために、夕食を提供できる場にもしたいと考えております。そのため、使用してない食器や食材等をご提供いただけたら幸いです。

企業に向けてのメッセージ

1. 「**ごちゃまぜカフェ**」を通して、子ども達とお年寄りが触れ合うことで、日本文化や、更には家族の温かさ、心の寂しさを埋めるための原動力になると考えています。
2. 地域の方がカフェに通ってもらうことで、障がい者の理解と、高齢者、子ども、健常者等、全ての方の心が豊かになると考えます。
3. 家庭の事情で、一人で夕食を食べなければならない子どものために、地域の課題でもある、孤立や個食を少なくしていけることを、このカフェを通して実現していきたいと思います。



手を携えて一緒に活動ができますよう、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

